

2012年度 早稲田大学 国際教養学部

日本史 解答例

I 原始・古代の信仰と災害 <やや易>

問1ア 問2イ 問3ア 問4ウ 問5エ

問6オ 問7イ 問8ウ 問9御霊会 問10イ

問2を難問と判定したが、伊勢神宮を身近に知っている人にとっては「内宮」「外宮」は常識だろう。ただし、受験ではあまり問われない内容なのである。逆に言えば、問2以外の問題は、受験ではよく問われている内容。たとえば問1は、「山を御神体」というだけで、三輪山を御神体とする大神神社と気づいてほしい。問7もヒントが少ないと感じるだろうが、これだけで正解してほしい問題なのである。ちなみに、問8にある『池亭記』は文化構想学部のIの解説でも紹介した著書。出題頻度が低いため通常授業では扱っていないが、早稲田予備校の「でるとこ日本史プラス」という単科講座では、史料文とともに拾っている。

II 中世・近世の水陸交通 <やや易>

問1ウ 問2揚浜 問3ア 問4エ 問5エ

問6※ 問7オ 問8ウ 問9エ 問10高瀬川

経済分野の学習には内容理解が欠かせないことを感じさせる大問であった。地名を苦手とする受験生も多いだろうが、それ以上に河川交通・海上交通の理解が不足している受験生が多いだろう。菱垣廻船・樽廻船・北前船・内海船の受験日本史におけるポイントは理解できているだろうか。単に運行した区間だけでなく、その特徴や長所、運行開始の時期まで掘り下げて理解すべきである。なお問6は試験後に大学側から「受験者全員を正解とする」という発表があった。「碓井」は「碓氷」の誤りで、さすがに作問ミスと認めたためである。

III 明治時代のあるアメリカ人の滞日記録 <やや易>

問1イ 問2イ 問3エ・オ 問4ウ 問5エ

問6ウ・オ 問7大久保利通 問8オ 問9イ・エ 問10ア

国際教養学部の十八番、英文史料問題である。特殊な形式のため緊張を強いられるが、早稲田ではおなじみの設問が中心で、難問は問9だけだった。大問の冒頭にある「1877年から1878年まで」という時期が、各小問を解く際の大きなヒントになっている。問3は2つ選ばせる問題だが、残り3つが容易に消去できるため難なく解けたらう。問10は、モースを「大森貝塚発見者」としか覚えていなかった人には厳しいだろうが、受験日本史では「進化論」を紹介したことまで普通に覚えておくべきだった。英語で講義が行われるという国際教養学部を受験する人なら、「進化論」は容易に英訳できるはずだ。

IV 近代の外交 <やや易>

問1エ 問2オ 問3イ 問4ウ・エ 問5 関東都督府

問6イ 問7ウ 問8ウ 問9ア・ウ 問10幣原喜重郎

近現代の学習は、地域や講師によって細かさにはかなり違いがあるようだ。しかし、早稲田大学の過去問を解きつづけると、この大問のレベルがあたりまえに見えてくる。今回はとりわけ早稲田ではよく出るテーマであった。10問中8つもある正誤問題に悩まされたかもしれないが、多くの選択肢は推測しながらでも判別できる。よって問4・8を「やや難」と判断した。

講評

Iの出題テーマ「災害」は、文化構想学部のⅢとかぶるテーマであった。こうした時事問題的なテーマは、受験生自身では予想することが難しいため、早稲田予備校では直前講習「MARCH学習院日本史チェック」や「早慶大日本史最終チェック」でプリントを配布して注意を促している。実際、今年の明治大商学部でも貞観地震は出題された。そして、この国際教養学部で引用された『方丈記』は、次の法学部の試験では大問の史料問題となって登場することになる。入試が始まってからでも最新の情報収集をしていると、トクすることは多い。